

市場から 世界をみれば

iSC 情報システム株式会社 大谷淳一



多くの特許を押さえようと、各国は競争しているのである。

取った概要版が発表されたが、科学的にはこのときが本当の節目であり、遺伝子は3万2000個であることなどが明らかになつた。「03年4月15日朝日新聞日刊」

解説完了を受けて、巨
大な利権を狙う各国は、
遺伝子の応用という新たな段階の「遺伝子戦争」へと突入する。競い合うものの一つが、たんぱく質の構造と機能の解析だ。遺伝子のつくるたんぱく質が生命活動を担つ

の遺伝情報に応じた医療の実現プロジェクト、略称は「オーダーメイド医療実現化プロジェクト」である。このプロジェクトは、次のように3つを主目的とする。

岩手医科大学。これらの医療機関が患者からボランティアを募り、収集することになつてゐる。

意したという。同意率は88%に上る（06年11月末の時点で、日本のDNAサンプルは23万5147件となっているという）。

第15回「遺伝子情報バンク計画の問題点」上

多くの特許を押さえようと、各国は競争しているのである。日本では、他国に遅れを取らないようにと、ある計画が持ち上がった。それは、日本で30万人の遺伝子情報をストックしようというものである。この計画には、文部科学省が03年から5カ年計画で300億円の予算を付けた。正式名称は「個人情報の遺伝子情報の収集・蓄積・利用に関する研究開発事業」だ。

の構築である。データベースを構築するだけならば、血液検体と診療情報はあまり意味をもたない。本当の狙いは、遺伝情報バンクのデータを用いて、病気に関する情報を得るためである。そこで、遺伝子や薬剤への感受性を決定するSNP（一塩基多型と訳される。遺伝情報のわずかな違いのことで、薬効の個人差などを表れる）を特定し、

関は東大医科学研究所で、同機関の中村教授がヒトゲノム解析センターで、同機関の中村教授がプロジェクトリーダーを務めている。血液検体と診療情報の収集を担当する医療機関は、順天堂大学、大阪府立成人病センター、医療法人徳洲会、日本大学、日本医科大学、東京都立老人医療センター、財団法人癌研究会、

毎年1回実施し、収集されたサンプルは東大医科学研究所ヒトゲノム解析センターの冷凍施設で凍結保存されるという。対象となる疾患は、癌、糖尿病、尿病、脳梗塞、白内障、緑内障、歯周病、狭心症、心筋梗塞、不整脈、気管支ぜんそく、結核、子宮筋腫、花粉症、てんかんなどの病気で、多岐にわたっている。プロジェクト

米などよりも早く「特許」で押さえておく」とある。

岩手医科大学。これらの医療機関が患者からボランティアを募り、収集することになつてゐる。

意したという。同意率は88%に上る(06年11月末の時点での日本DNAサンプルは23万5147件となっているという)。

遺伝子戦争は農作物の世界だけの話ではない。人間の遺伝子もまた争いの元となっている。

もの一つが、たんぱく質の構造と機能の解析だ。遺伝子のつくるたんぱく質が生命活動を担っているので、その研究は新薬の開発につながる。ヒトゲノム解析とは違ひ、たんぱく質の解析は特許に直結し、膨大な利益を生む可能性がある。そのため、できるだけ

略称は「オーダーメイド医療実現化プロジェクト」である。

にある。このプロジェクトは、次の3つを主目的とする。

の時点では、日本のDNAサンプルは23万5147件となっているという。

情報バンク計 算

画の問題点上

クトは、04年2月末の時
点で4万885人に依頼
し、3万6175人が同
意したという。同意率は
88%に上る（06年11月末）

して病気に関係する遺伝子や薬剤への感受性を決定するSNP（一塩基多型と訳される。遺伝報のわずかな違いのことで、薬効の個人差などを表れる）を持つ。

診療情報の収集を担当する医療機関は、順天堂大学、大阪府立成人病センター、医療法人徳洲会、日本大学、日本医科大学、東京都立老人医療センター、財団法人癌研究会、

尿病、脳梗塞、白内障、
緑内障、歯周病、狭心症、
心筋梗塞、不整脈、気管
支ぜんそく、結核、子宮
筋腫、花粉症、てんかん
などの病気で、多岐に
わたつてゐる。プロジェ

スの構築である。データベースを構築するだけならば、血液検体と診療情報はあまり意味をもたない。本当の狙いは、遺伝子情報バンクのデータを

プロジェクトの拠点機関は東大医学研究所で、同機関の中村教授がヒトゲノム解析センターを務めている。血液検体と

毎年1回実施し、収集されたサンプルは東大医科学研究所ヒトゲノム解析センターの冷凍施設で凍結保存されるという。対象となる疾患は、癌、糖

【略歴】 1957年北海道美唄市生まれ。85年、食品管理、生鮮管理のシステムを開発する情報システムを創業。荷受卸売業者や食品製造会社、仲介業者向けのコンサル

テイング、セミナー、業務改革、講演を各地で行つて、主な執筆として「青果卸の業務改善」「青果卸の業務改善2」などがある。